米国の個人トラック制度

OWNER OPERATOR SYSTEM

現地取材体験日誌

▶3

ロジタント 吉田 祐起

残念ながら計画中止に

それならばと、リムジンで市内観光

同乗あきらめ NY行き決意

トラック・ストップの取材めざして

10月22日(土曜日)

午前8時起床。朝食はシェラトン・ホテルのレストランでバイキング。

午前9時、シェラトン・ホテルのロビーに集合。今日は、十八輪の運転をするためのテストがあるのだ。

ロビーにはすでに、ロジソン・ハウスというレストランの社長をはじめとするスタッフの方々が勢ぞろいしていた。

わたしたちは、ロジソン・ハウスの社長さんの車に乗せていただいてテストセンターへ向かった。

テストセンターに着くと、まず、オーナーオペレーターのテストを受けるのだという。

シェイファーの方々の話によると、オーナーオペレーターとは、トラックを自分で所有して運転する人のことだという。

日本でいえば、運送会社に所属するドライバーさんのことだ。

シェイファーの方々は、オーナーオペレーターになるためのテストを受けるのだという。

テストは、ペーパーテストと実技テストがあるとのこと。

ペーパーテストは、交通法規や、トラックの構造、荷物の積み方などについて、全部で200問ほどあるらしい。

実技テストは、バックの仕方や、坂道発進などがあるという。

ペーパーテストは、一問一問、選択肢が4つあり、その中から正しいものを選ぶ形式だ。

わたしは、ペーパーテストを受けることになった。

問題用紙を渡されたが、英語で書かれているので、全く理解できない。

ロジソン・ハウスの社長さんが、わたしのために、問題を日本語に訳してくださった。

問題は、「あなたは、ブレーキを踏んでいるときに、ハンドルを切ってはいけない。○か×か」というような、簡単なものから、「ブレーキ・ドラムの温度が上がると、ブレーキの効きはどうなるか」というような、専門的なものまであった。

問題は、全部で200問あるが、わたしは、そのうち、100問だけ解答すればよいとのことだった。

わたしは、日本語に訳していただいた問題を、英語で解答していった。

ペーパーテストは、1時間ほどで終了した。

午後からは、実技テストだ。

実技テストは、シェイファーの方々が、1人ずつ、トラックに乗って、試験官と一緒に、公道を走るのだ。

わたしは、ロジソン・ハウスの社長さんの運転するトラックに乗せていただいた。

社長さんは、ギアチェンジをしながら、ブレーキの踏み方や、ハンドルの切り方などを、わたしに教えてくださった。

社長さんは、「ギアチェンジは、エンジンの音を聞いて、エンジンの回転数を見ながらやるんだ。エンジンの回転数は、タコメーターを見ればわかるよ」と教えてくださった。

社長さんは、「ブレーキを踏むときは、ゆっくりと踏むんだ。急ブレーキを踏むと、荷物が前に飛び出すからね」とも教えてくださった。

社長さんは、「ハンドルを切るときは、ゆっくりと切るんだ。急にハンドルを切ると、トラックが横転してしまうからね」とも教えてくださった。

社長さんは、「坂道発進のときは、ブレーキを踏みながらアクセルを踏むんだ。そうすると、ブレーキを離したときに、トラックが後ろに下がらないからね」とも教えてくださった。

社長さんは、「バックするときは、窓から顔を出して、後ろをよく見るんだ。ミラーだけに頼ってはいけないよ」とも教えてくださった。

社長さんは、「高速道路を走るときは、車間距離をしっかりとるんだ。前の車が急ブレーキを踏んだときに、追突しないようにね」とも教えてくださった。

社長さんは、「交差点を右折するときは、対向車線にはみ出さないように、大きく回るんだ。小回りしようとすると、対向車線にはみ出してしまうからね」とも教えてくださった。

社長さんは、「交差点を左折するときは、歩行者や自転車に巻き込まれないように、ミラーをよく見るんだ。特に、自転車は、ミラーに映りにくいから、注意が必要だよ」とも教えてくださった。

社長さんは、「踏切を渡るときは、一時停止をして、左右を確認するんだ。踏切の手前で、エンストしないように